

23 ニッコウイワナ

(サケ科)

兵庫県ランク:要調査

Salvelinus leucomaenis pluvius

環境省ランク:DD

種の概要

全長20 cm程度。日本の魚類の中では最も上流に生息する。陸生・水生動物を食べ、2年で成熟する。産卵期は秋で、紅葉の時期と一致する。産卵は砂礫底に雄が産卵床を掘り、雌とともに産卵放精を行う。イワナには複数の亜種が含まれるが、兵庫県には亜種ニッコウイワナが自然分布する。ニッコウイワナは日本固有亜種で、太平洋側では山梨県、日本海側では鳥取県以北の本州に分布する。ほぼ陸封型だが、北方では一部に降海型が現れる。



写真提供: 新村 安雄

県内における生息状況及びその他特記事項

県内での自然分布は日本海側の岸田川、矢田川、瀬戸内海側の千種川水系だと考えられる。このほか、日本海側の円山川、瀬戸内海側の揖保川水系にも生息するが、遊漁放流に由来する個体だと考えられる。

保護上の留意点

兵庫県では夏季の最高水温が15度以下の源流域に生息する。樹木の伐採による日射量の増加に伴う水温上昇を防止する必要がある。砂防堰堤の設置が生息域を分断し、個体群サイズの縮小につながっていることも生存上の脅威である。また、遺伝的な精査による在来個体群の確認が求められる。在来個体群が見つければAランク相当であり、ニッポンバラタナゴと同様に交雑を防ぐための支流単位の保全策が必要となる。

県内分布

宍粟市、香美町、新温泉町

【執筆者】田中 哲夫・庄子 恭平・信本 励

主要な選定理由

人為性	激減	△
	環境	
	捕獲	○
	遺伝	○
特殊性	特殊	
	孤立	
学術性	極限	○
	限界	
	希少	○

